

開倫塾の塾生は小学校1年生から高校3年生まで全員、新聞を毎日読もう  
—新聞を毎日読み、自分で考える力と批判的思考能力を身に付けよう—

開倫塾  
塾長 林 明夫

**Q：新聞は毎日読んだほうがよいのですか。**

A：(林明夫：以下省略)はい。私は、開倫塾の小学校1年生から高校3年生までの塾生の皆さんは全員、新聞を毎日読んだほうがよいと考えます。

**Q：えっ、小学生も新聞を毎日読んだほうがよいのですか。**

A：(1)もちろんです。各新聞社は、小学生でも読める「小学生新聞」を出しています。3年生までは、「小学生新聞」を毎日読むことを心からお勧めします。

(2)4年生以上は、普通の新聞を毎日読むことをお勧めします。4年生であれば新聞はいくらでも読めますよ。

(3)私は、足利市立山辺小学校の4年生のときに、クラス担任の岡典子先生から小学生も新聞を毎日読むとよいと教えられました。そこで、最初は少しずつでしたが、新聞を毎日読むようになりました。

**Q：中学生や高校生も新聞を毎日読んだほうがよいのですか。**

A：(1)はい、もちろんです。小学生も毎日読んだほうがよいのですから、中学生や高校生は当然新聞を毎日読むことを心からお勧めします。

(2)小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学、大学から大学院と学年が進み、そこで学ぶ内容が豊富になり、深まれば深まるほど、少しずつかもしれないですが、新聞の内容がよくわかるようになります。

(3)小学生よりは中学生、中学生よりは高校生のほうが、より熱心に新聞を毎日読むことをお勧めします。

(4)高校生は、1日に1回は図書館に行き、複数の日本の新聞と日本を出ている英字新聞を読むことをお勧めします。

(5)大学生や大学院生になったら、1日に1回は大学の図書館に行き、日本の新聞のほかに外国の新聞をいくつかの言語で読むことをお勧めします。

**Q：なぜ林さんは小学校1年生から高校3年生までの塾生の皆さんに新聞を毎日読むことをこれほどまでに勧めるのですか。**

A：(1)小学校、中学校、高校、大学、大学院と続く学校での学習はすべて大切です。学習は積み重ねですので、今、学校で学習しているすべての科目の内容は、次の学年や上級の学校で、また、社会に出て必ず役に立ちます。ですから、すべてをしっかりと「理解」した上で「定着」させてください。ただし、現在の世の中でどのようなことが行われているのかは、教科書にはあまり書かれていません。学校の授業中にも十分に教えられていません。

- (2)世の中の出来事はテレビやラジオ、インターネットなどでも知ることができますが、テレビやラジオでは時間の関係でごく限られた大きな出来事が繰り返し報じられることが多いようです。また、インターネットでは自分の関心の高いことしか見ないことが多いようです。
- (3)学校での学習やテレビ・ラジオ・インターネットは皆大切なものですが、私は、新聞を毎日読むことは世の中の動きを知る上で極めて大切なことだと確信します。
- (4)なぜなら、新聞は、「番犬」(watch dog)が何かあったときにワンワンと吠えて知らせるように、社会に重大な事件・出来事・問題やみんなで行き詰まらなければならない課題などがあったときに、それらを伝える役割(社会的使命、ミッション)をもつからです。

**Q : ところで、新聞はどのように作られ、届けられるのですか。**

- A : (1)新聞記者の皆さんは、社会を少しでもよくするために読者に伝えるべき記事はないものかと毎日取材をなさって記事にまとめ、編集者の方に送っています。
- (2)編集者の方は、記者の方々から毎日送られてくる膨大な記事の中から、今、最も読者に伝えなければならないことは何かを考え、大小の見出しをつけて読者が読みやすいような形に整え、紙面作りをなさいます。
- (3)それを高速印刷機で夜 12 時過ぎから印刷し始め、出来上がった新聞はトラック便で新聞配達店まで届けられます。新聞配達店では、仕分けをして折り込みチラシを入れます。そのあとに、配達員の方々が自転車やバイクで朝 5 時過ぎくらいまでに各家庭やコンビニなどに配達していただきます。
- (4)新聞には朝届けられる「朝刊」のほかに、夕方届けられる「夕刊」というものがあります。「夕刊」は、その日の午前中に世の中で発生した大切な出来事までをカバーしています。日本は、同じ名前の新聞で「朝刊」と「夕刊」の 2 種類が発行されている素晴らしい国です。皆さんは「夕刊」を読んだことがありますか。とても興味深い記事が載っていますよ。

**Q : 新聞を毎日読むと、何かよいことがありますか。**

A : たくさんありますよ。

- (1)世の中のことがよくわかります。新聞の「地方版」をよく読むと、自分の住む「市や町」「県」「北関東」など「地域」のことがよくわかります。また、最初のページを「一面(いちめん)」といいます。一面からゆっくりとなめるように読んでいくと、日本や世界では今どのようなことが起こっているのかがよくわかります。政治や経済の動きもよくわかります。例えば、日本銀行は中央銀行といって、日本銀行券つまりお札(お金)を印刷していること、また、銀行の銀行といって、銀行に貸し出すお金の量を調整することで極端なインフレ(物価の上昇)なしに経済を成長させ、失業者を少なくし、雇用を維持・安定・増加させようとしていることもよくわかります。円高になると失業率が上がり、円安になると雇用が増える。ただし、円安が続くと輸入価格が高くなる。このようなことも、新聞をよく読むとわかってきますよ。
- (2)知っている「ことばの数」がどんどん増えてきます。1日に1つの新しいことばを知るだけでも、1年で365、3年で1000の新しいことばを知ることができます。30年なら10000にもなりますよ。知っている「ことばの数」が増えると、学校の授業もよくわかるようになります。
- (3)文章をしっかりと「理解」しながら読むスピードが速くなります。そのため、少し難しめの長い文章を読むことができるようになります。私立中学校入試、中高一貫校入試、高校入試、大学入試、大学院入試、就職試験、様々な国家試験の問題文や設問は相当な分量がありますので、新聞を読むことはよい試験対策になります。

(4)新聞は、多くの記事が 5W1H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように)の形を踏まえ、こうだからこうだと筋道立てて論理的に書かれています。新聞をよく読むと、筋道立てて論理的にものごとを考える力が少しずつ身に付いてきます。

(5)そして何よりも、新聞は、記者の一人ひとりが自らの良心と生命を懸けて社会をよりよくするために社会の問題点や課題を掘り起こしたものですので、新聞をよく読むと自分で考える力と批判的思考能力が少しずつ身に付きます。ただし、新聞に書かれていることは、1つのものごとを1つの新聞社がとらえた1つの見方に過ぎないということも忘れてはならないと私は考えます。図書館などでいくつかの新聞を読み比べてみると、ある1つの出来事について大きく取り上げている新聞もあれば、一行の記事にもしていない新聞もあることがわかります。

新聞を読む場合にはこれは世の中をとらえる1つの見方なのだと言われ、自分の力でよく考え、批判的に読むことが大切です。新聞に出ているのは世の中の出来事のごく一部で、多くのことは載っていないということもお忘れなく。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)新聞を毎日一面からなめるようによく読むと、長い文章を読むことに慣れ、ことばの数も増えます。また、何のために各科目を学ばなければならないのかが少しずつわかってきますので、自覚が出てきて、学力もグングンと上昇します。新聞に加えて、学校の各科目の教科書に紹介されている著者の本を、著者とじっくりと対話をするようなゆっくりさで丁寧に深く考えながら4～6回読むと、思慮深さが少しずつ身に付いてきます。学力の高い人は、本の冊数は多くなくても、1冊の本をじっくりと何回も読んで思慮深さを身に付けているようです。

(2)遠回りかもしれませんが、この文章をお読みになった開倫塾の小学校1年生から高校3年生までの塾生の皆さんは、今日から新聞と読書に励んで自分で考える力と思慮深さを身に付けてください。これに加えて学習の仕方を身に付ければ、学力も飛躍的に向上しますよ。

以上

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)